

＜ もくじ ＞	
1. 2020年度連続講座 第1回開催のお知らせ(再掲)	1
2. 「創立20周年記念大会」への参加状況	1
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 研究会からの概要報告	3
5. 事務局からのお願い	5

1. 2020年度連続講座 第1回開催のお知らせ(再掲)

＜第1回連続講座の概要＞

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、働く場や教育の場そして日常生活でもICT利用の場面が多くなりました。対面でのコミュニケーションが制限され、インターネットを介したコミュニケーションのために今まで利用していなかったツールの利用を始めたりなど、日常生活を送るために対応が求められた方もいらっしゃるでしょう。このように、新型コロナウイルス感染症の拡大は、多くの世代のICT利用に大きな影響を及ぼすと考えられます。

ニューノーマル(新常态)のなかで、ICTはどのような役割を果たせるのか、社会情報研究会の現役世代メンバーが、それぞれの立場から事例も交えてお話しします。

(1) 日 時：11月28日(土) 14:00~15:00(予定)

(2) 方 法：ZoomによるWeb会議方式で開催、講師3名によるリレー方式となります

(3) テーマ：コロナと共生する社会～ICTと歩むこれからのニューノーマルライフ～

(4) 講 師：

- ・八巻睦子(会員、ユニアデックス株式会社未来サービス研究所)：企業・家族の視点から(仮)
- ・森嵩由紀子(会員、駒沢女子大学非常勤講師)：教育の視点から(仮)
- ・富田光則(会員、株式会社電通マクロミルインサイト)：シニアの視点から(仮)

※ お問い合わせお申し込みは、事務局までeメールにてお願いします。

※ お申し込みいただいた方に、Zoomのミーティングへの招待メールをお送りします。Zoomの利用については、シニア社会学会HPにマニュアルのご案内がありますので、参考になさってください。

2. 「創立20周年記念大会」への参加状況

2020年度の「創立20周年記念大会」は10月15日(木)の第1段階を経て、第2段階は10月30日(金)から11月14日(土)まで大会の様相を収録したビデオ画面をオンデマンドで配信し、会員に加えて非会員の方にもご参加いただける形といたしました。

視聴いただいた人数は、第1部「基調講演」(袖井孝子会長)は42名、第2部「鼎談」は25名、第3部「シンポジウム」は23名となり、基調講演は当日参加者も含めて50名以上の方々にご覧いただきました。お寄せいただいたご意見・ご感想は来年発行のエイジレスフォーラム19号でご紹介する予定です。

「コロナ禍」の影響で延期されていた2020年度の「創立20周年記念大会」も、これを持ちまして無事終了することができました。皆様のご協力に感謝いたします。

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第14回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年11月18日（水） 15：00～17：00
- 2) 場 所：Zoom開催
- 3) 概 要：連続講座「コロナと共生する社会～ICTと歩むこれからのニューノーマルライフ～」
についての検討

※ 参加ご希望の方は、森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(2) 第127回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年11月25日（水） 18：00～20：00
- 2) 報告者：谷口 佳充（三井住友信託銀行人生100年応援部長）
- 3) テーマ：「高齢者の財産管理のための家族信託」
- 4) Zoomで開催いたしますので、ご参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡下さい。
後程、招待メールを差し上げます。

阿部 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島 kojima.misao01@gmail.com

(@は、半角にしてメール送信ください)

※ ご質問がございましたら、阿部までご連絡下さい。

(3) 「ライフプロデュース研究会」開催のお知らせ

11月25日（水）17：00～17：40 Web 飲み、17：50～18：30で開催予定です。テーマは、前回、新たに提案されたテーマの中から一つ選ぶ予定です。参加希望の方は、シニア社会学会までお知らせください。皆さまのご参加、お待ちしております。

(4) 第75回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年11月26日（木） 15：00～18：00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：ヒブリオバトルによる推薦本『日本国憲法』（小学館刊）の発表と討議
- 4) 発表者：島村健次郎
- 5) 参加者：300円

※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願い致します。

(5) 第10回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年11月28日（土） 18：30～20：00
- 2) 場 所：江東区南砂町グリーンハイツ集会所
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員（YNS やまぶき任意後見サポート会）
- 4) テーマ：市民が市民を支える社会をつくります
人形劇、詩吟などを行います。介護の現状を経験から報告しながら、相互扶助の在り方を考えます。地域の方たちと地域の現状とこれからの在り方について話し合います。

※ お問い合わせは、鈴木眞澄（mme_masumi@yahoo.co.jp）迄お願い致します。

(6) 「シニア社会のリテラシー」研究会から

「大磯コミュニティ・カレッジ」特別企画のご案内

濱口副会長が主宰し、当学会が後援する表記のカレッジで、「シニア社会のリテラシー」研究会のメンバーが参加する講座が開催されますので、ご案内致します。

- 1) 日 時：2020年12月3日（木） 14：30～16：30
- 2) 会 場：大磯町東光院フリースペース海近寺楽（大磯駅から徒歩6分）
- 3) テーマ：吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』を読む～生きてきた者たちからの伝言～
- 4) 発表者：司会進行 濱口晴彦
発題者 島村健次郎

対案者 大下勝巳
まとめのコメント 安田和紘

5) 参加費：1,000円

6) 申込み・問合せ：電話 070-3526-7310（こみゆにてー・パティオかりん：富山氏）

(7) 第76回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2020年12月17日（木） 15:00～18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：発表 — 「青鞥の女性たち/平塚らいてうと伊藤野枝を中心に」

4) 発表者：堀江副武

5) 参加者：300円

※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願い致します。

(8) 第11回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2020年12月19日（土） 18:30～20:00

2) 場 所：きゅりあん（品川区立総合区民会館）

3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員（YNS やまぶき任意後見サポート会）

4) テーマ：市民が市民を支える社会をつくります

※ お問い合わせは、鈴木眞澄（mme_masumi@yahoo.co.jp）迄お願い致します。

(9) 「災害と地域社会」研究会から「シンポジウム」のお知らせ

第7回シンポジウム「あれから10年～わたしたちはフクシマを忘れない：富岡町と浪江町の10年目」

1) 日 時：2021年1月10日（日） 14:00～17:00

2) 場 所：Zoom による開催

3) 概 要：10年目を迎えるフクシマ原発被災地で、地元の復興を担ってきた住民の方々は、地域の復興、個人の復興をどのように経験し、また新型コロナウイルスの復興への影響をどのように感じて日常を送っているのでしょうか。今回は現地から地元の人びとに報告していただきます。

※ 詳しくは、添付チラシをご参照ください。参加ご希望の場合は、2020年12月1日～2021年1月8日の間に、当学会ホームページ、または添付のチラシにある URL の申し込みフォームからお申し込みください。Zoom 参加ですが、人数に制限はありません。

※ お問い合わせは、長田まで。pfb00052@nifty.com 090-2157-8865

4. 研究会からの概要報告

(1) 第74回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2020年10月22日（木） 15:00～17:30

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：『コロナ感染拡大防止策としての移動の自由を制限すること』

4) 発表者：薄井 滋

例会は、9ヵ月ぶりにマスク着用、3密を避けるなど配慮して再開した。薄井さんからコロナ禍に関連してのテーマで、23ページにまとめられたレポートに沿って発表された。問題意識として、コロナ感染が進み、次から次へ新たな事態が出現して来ている中で、コロナウイルス感染防止策として行われた人々の移動の自由の権利の制限（私権の制限）とそれに対する国民側の反応に関心を持ち、日本を含むさまざまな国での移動の制限がどのような問題を生じさせ、それが今後どのようなことを生み出すかを考えたこと。外国は、ドイツ（国民の権利意識が強い）、アメリカ（自由を奪われることに強い抵抗感）、中国（国民の私権は党、国家に準ずる）を取り上げたが、コロナ感染と感染防止策に対する国民の反応はそれぞれの国の歴史、政治体制によって異なるこ

とが分かったと分析された。最後に、「自分がその人の立場だったらどうだろうと想像することによって誰かの感情や経験を分かち合う能力」であるエンパシー (empathy) に触れられ、世間に対して行う規準も結果も曖昧な自粛ではなく、彼そして彼女を具体的な対象として描き、目的をもって行動すべきで、コロナ危機が終わっても必ずやってくる次の機会に備えるべきだと考えたと述べられた。(島村 記)

(2) 第126回「社会保障」研究会の報告

- 1) 日 時：2020年10月28日(水) 18:00~21:00
- 2) 報告者：椎根 溪(住宅型有料老人ホーム ウェルケアヒルズ馬事公苑サービス提供責任者)
- 3) テーマ：「施設生活から社会生活へ～老人ホーム入居後の自分らしい生活について～」
- 4) Zoomで開催。参加者 14人

今回は「住宅型有料老人ホーム」についての報告である。現在の入居者は19名、平均介護度は要介護2.2。自立支援介護を大きな目的として取り組んでいる。具体的には歩行(2km)・水分摂取量(1500ml)・自然排泄(1回以上)・栄養(1500kcal)を一日の目標とし、自立生活が可能で体内環境の維持をサポートしている。体力維持とともに大切なことが、社会参加である。施設へ入居すると社会参加や社会貢献が難しくなる。入居後でも自分らしい生活ができるようにきっかけ作りや役割創出への取り組みを行っている。地域イベントへの積極的な参加や、近隣の園児への読み聞かせなど、その人らしさを大切にしながら生活ができるように環境を整えてきた。

上記のような試みも、コロナウイルス蔓延の影響を大きく受けた。不要不急の外出自粛により、行動範囲が減少。それに伴い、意欲の低下、活動量の減少、繋がりの消失などがみられた。現在は、緊急事態宣言時に比べ改善された。活動量の減少対策はリハビリ室の開放や、階段昇降などの屋内運動を励行。繋がりの消失は、卓上ゲームを楽しむサロンを開設するなど施設内での活動で改善を試みた。また、水分摂取量、ゴミ捨て等の生活行為を自己管理へ移行することで、生活管理能力を高めていく。今後は、入居者を単なる被保護者としてとらえず、自己選択・自己管理・自立生活ができるよう最低限の支援をする。それを継続することで入居者主体の生活の場を目指す。

今回は司会を小島克久氏が担当した。オンライン開催としては2度目であったが、チャットも活用し、参加者が発言しやすいように組み立ててくださった。カラオケボックス・ネットカフェなどの参加場所を問わないこともオンライン研究会の大きなメリットだと感じた。(阿部 記)

(3) 第13回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2020年10月29日(木) 15:00~17:30
- 2) 場 所：Zoom開催
- 3) 概 要：連続講座「コロナと共生する社会～ICTと歩むこれからのニューノーマルライフ～」についての検討 連続講座の講演内容の検討を主に行った。

(1) 富田 講座の担当部分第3部「ICTと歩むシニア」

高齢者のICT利用について統計資料から未だに情報弱者である現状を説明。またコロナ禍での高齢者のICT活用事例として介護施設の状況を取り上げた。追加事例として研究会メンバーが活動している地域の状況について紹介することとした。

メンバーからは、「シニアはICTが使えないと困るという現状がある。今、シニアはICTを使わないとふるい落とされてしまう」といったコメントがあった。

(2) 富田 講座のまとめ部分「アフターコロナ期 シニア社会でのICT課題とは？」についての検討

3名の報告者の講演を受けてのまとめ部分にあたるため、たたき台として提示した。参加者での議論を経て、3名の報告者で次回までに検討を重ねることとした。

(3) 齋田 「オンライン教育知見 for ICTスキル」について—放送大学の「教育のためのICT

活用」からのまとめ

放送大学「教育のためのICT活用」講座の“大学教育の利用状況“をもとにした教育変革事例の紹介がなされた。インターネット利用は大学の活動全体に拡大しており、「授業へのICT活用」は「オンラインによる授業形態の多様化」の変革をもたらしつつある。オンライン教育(MOOC)では変革可能性と問題点がある。現状の解決策として期待される3つのアプリケーションがある。

- ① LMS(ラーニング・マネージメント・システム 学習管理・学習運用システム)
- ② 教育支援チームの組織形成
- ③ 反転授業

今後のICT活用教育での焦点は、機械任せ拡大の中で「何をどうとらえ、どう考えるか」の基礎学力が決定的に大事になる。少子高齢化社会では第二ステップ、第三ステップへの社会人教育が不可欠であり、情報洪水をのり越える情報リテラシー獲得へ、主体的コミュニケーションと学習の蓄積が重要である。(森 記)

(4)「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

『任意後見をして!』という冊子を作製しました。情報が満ち溢れている中で私たちの身のまわりに溢れている情報は極めて単一であることに気が付かなければなりません。必要な情報は繁栄する都市の地底に追いやられ見えなくされているのではないのでしょうか。「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現」しなければなりません。このことから本会では、認知症の方が住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けるための研究を続けています。特に昨今はコロナ感染で社会全体が変わろうとしています。そこで、かつての協働組合や沖縄の「ゆいまある」「地割制度」「伏見16会」頼母子講、無尽などを取り入れ相互扶助の関係をつくるが必要になっていると考えています。(鈴木真澄 記)

5. 事務局からのお願い

会員情報(氏名・住所・メールアドレス等)に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願い致します。

なお、電話による会員情報変更や退会の連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、メール・FAX・郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願い申し上げます。

一般社団法人シニア社会学会・事務局(水、および月または金オープン)
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
電話&FAX:(03) 5778-4728
eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp URL: http://www.jaas.jp/